

5C⑦キングダムセミナー20250712

今日、大阪から奈良原ご夫妻が、ここに参加されています。それで、今、このセミナー本を製本された時の秘話などを紹介させていただいていました。奥様の方は、今年の1月からLINEで参加されています。「皆さんの顔を見て、めっちゃ、感動しています」とのことです。

では、始めましょう。今、パート1のとっても大事なところを押さえています。

聖書の言葉をあちこち読んだりして、ちょっと集中しないといけないところなんですけれど、とっても大切で、ここだけは押さえてほしい基本の“き”なんです。ここを押さえていかないと、キングダムセミナーに深まっていけないと思いますので大事に進めていきましょう。はい、というところで、初めに賛美をしましょう。

賛美

前半 10 : 00.79

はい、それでは7月のキングダムセミナーを始めていきましょう。

今さっき、言いましたように基本の“き”の部分です。基本の“き”と言っても、ちょっと真剣に集中して、このところを消化していきたいと思います。

5クール目の一番最初に、創世紀の1章2章3章4章あたりを通してやりました。その土台は、アダムとエバが、「神様がとって食べるなど言った“善悪を知る木の実”を取って食べたから、人間が罪人になった」と。神に裁かれるものになった。というふうに、簡単に受けとらうと思えば、簡単に受け止れる。だけど、そう簡単に言ってしまえばそうなんだけど、それだけで飲み込んでしまったら、めっちゃもったいないですよということを言いました。

神様の命令に従わなかったから、罰を受ける、神に怒られる。神に滅ぼされる存在になったのか。そう見ることも不可能ではないけど、「聖書の原文をゆっくり、じっくり読んでいくと、もっと神様の心が汲み取れるよね」とそういう読み方をしてきました。神様に対して、そういう厳しい神、裁きの神、怒りの神というイメージを根底から人類に持たせるために、あの聖書の部分を神様は指示されたんですか。書かれたのですか。

それをしっかり私達は、聖書の始めの部分から、それも書かれたままの、読み方で、じっくり読んでいくことをしてみようということで、これまでやってきました。13 : 52.12

神様は、初めに作られたアダムに、支配させようと、治めさせようと造られて、その神様の“支配権という王権”というのを人間に与えられて、特別な存在として造り、共に歩もうとされた。初めのそのアダムが、それからどうしたかというところが肝心。そこへ蛇がやって来て、神様と女との間に語りかけたんだよね。だからその辺のところは、1回目と2回目、3回目あたりを、どうぞ、よくお聞きになってください。その土台の上に、このキングダムセミナーが、今もありますから。

だから、後に、クリスチャンの王権、キングシップっていうことを言ってます。それは、神様の心にある初めのアダムの中にある雰囲気なんだよね。それで、先月と今月、このパート1の【主との一致】っていうところで、神様は、私たちとどんな関係を望んでおられるんですか？ イエス様と私たちの関係は、どういう関係として、造られたんですか？そして、聖霊と私たちの関係っていうのは、どんなものとして描かれているんですか？というところなんです。16 : 39.92

5C⑦キングダムセミナー20250712

家の天井近くに棚があって、その上にお札が立ててあって、朝晩、それに手を合わせて拝んで祈る。それを信じています。それにお願いします・・・私の祖母は、もう朝起きたら家中そうやって拝んでいて、外に出てはお日様を拝み、あれこれ拝み、・・・私は幼い時から、それ見て育ってきましたから・・・もうすごいんです。でも、おばあさん以外は誰もしないんです。おばあさんだけがしていたんです。おばあさんはなんで、こんなふうにするんだろうと、そう思いながら育っていました。「あんたも拝みい」とは言われなかったからね。私はしなかったけれどね。そういうふうに対象として拝んで、奉って、・・・という信仰姿勢もあるでしょう。

だけど、聖書が語っている【信仰】っていうのは、この“信仰”という言葉を使わないのであれば、それはなんですか？ それは神様との自分との【関係】でしょ。イエス様と自分との関係でしょ。神様と自分との歩み、イエス様と自分との歩み、聖霊との歩みよ。で、その関係性というものが、【リレーションシップ】っていうものが、我々の信仰というもののなんですよ。信仰、信仰っていう言葉を使うと、なんか、変わっちゃうよね。そうじゃあないですよ。【ギリシャ語の「pistis」(ピスティス)】の“信仰”って言葉は、忠実とか誠実とか、その相手との関係が、どういうものかというものを表してるわけよ。

だから「私は、はい、神を信じています。イエス様を信じています」と。そうなんだけど、どんなふうに関係を持っていますか？ あなたと主とはどういう関係なんですか？ その関係性が、私たちの毎日の生活に滲み出てくるわけでしょ。だから、そういう【主との関係性】が、深い呼吸、あるいは気持ち、そういう生き方、生活が、周りの人に伝わらざるを得ないわけでしょ。どうしても伝わっちゃう。それが関係性というものです。 20 : 18.21

だから、宣教とか伝道というのが、イエス・キリストのことを伝えるんだけど、それも確かに宣教であり、伝道なんだけど、・・・もっと基本的な私たちの生き方から放たれる【祝福】と【愛】と【親しさ】と・・・それは、父なる神と、子なるイエスと、聖霊との交わりの中から、もう抑えようとしても、抑えられない、滲み出てくる【嬉しさ、楽しさ、愛おしさ、そして、不動の平安】 そういったものがあるんですよ。 21 : 19.48

だから先月、【主との一致】というところで、聖書の中にどう書いてあるかについて、話しました。初めのアダムは、神と一致していました。《主の中にいる私》《キリストにあって・・・》《キリストの中で・・・》、という言葉がいっぱい聖書の中に出てきます。昔、私達、パソコンがない時代、メールがない時代、手紙を書いて、最後になんて書いたかっていうと、《主にあって》って書いて終わりましたよね。まさしくあの通りなんです。

「《私たちは主の中にいて》、こういう会話をしていますよ。」ということを確認してる言葉が、《キリストに在る》という言葉なんです。「でも、それは、言葉の上だけではなくて、実体的になんですよ。もう、神の側から見れば、あなたは《キリストの中に置かれている》んですよ」ということでしょ。

くちやくちの紙をこの本の中にしまい込んで、ぱっとこうすると、・・・って、何回も私、やりましたけれど、「その私は、本当に、どんな者であっても、“この本の中にあって”、私は綺麗です」と。「私はまるでこの本です。」と。それが、《キリストに在る》ということなんです。

このことは、そのように「思いなさい」とか、「思い込んでいなさい」と言っているんじゃない。前も言いましたよね。聖書の言葉は、「そうだと認めなさい。その通りだから」と言っているわけ。《勘定(ロギゾマイ)しておきなさい！》って。「そういうあなたは、こう、こう、こうで、もう、あなたの分は支払われ済みです」って言って、

5C⑦キングダムセミナー20250712

線をピーっと引かれて、印鑑位置で、ポーンと赤い印鑑を押されて、「支払い済みです」って言ったら、もう誰が何と言われても、《支払済み》なんです。《確定》なんです。それを、ぐずぐず、「いやー、私なんてねえ」なんて思うのは、そんなの、あなた、もうイエス様はガッカリですよ。神様もガッカリですよ。だから、堂々と、「支払済みです」いうふうに思っているし、ガッツリ、そう思うべきなんです。24：36.25

だから、私たちは、主の中にいるんだ。主と離れているんじゃない。主と離れて、イエス様と離れて、どっか遠い所からイエス様に祈ってるんじゃないんです。この実態感をじっくり、自分の中で、どうぞ、煮詰めて下さい。頭で「あ、そっかな」じゃなくて、じっくり自分のものとするということが、めっちゃ、大切です。「すぐにできない」って言うてもいいです。だけど、もう、それを何回も何回も思い巡らしてね、私達がどこにいても、何をしてても、朝布団の中で、パッと目を覚まして、また、眠る時も、その《主の中》です。これが、自分の中に焼き付けられて、自身のものに成ったら、前進ですよ。25：57.57

そうやって、《主の中に置かれている》っていうことが分かったら、私たち自身の即座に癒しになりますから。そのことが癒しになります。

イエス様は、居られた時に遠い過去の旧約時代のことを、色々例にとって言われましたけど、それは、今も自分が旧約時代の中にいて、昔のものを何か引きずって、ぐちゃぐちゃ言うてるんじゃないでしょう。あれは、イエス様が、今日という日は、どんだけ大事かということ、何回も何回も、弟子たちに（ヘブライ語で）語られているわけです。というの、ヘブライ語の時制は、・・・英語の時制は現在・過去・未来、ばっちりあるでしょ。日本語もありますよね。大概、現代語はみんな、それがありませんよね。でも、ヘブライ語って面白いんですよ。未来の言い方で、過去を述べる。過去の言い方で、未来を述べるんです。現在形っていうのはないんです。ヘブライ語の時制は、はっきりしてないんです。だから、時制の過去、現在、未来が、ほんとにもうごちゃごちゃなんです。よくこんな世界で生きてたのと、思いませんか。だから、現代のイスラエルの現代ヘブライ語を話す人たちは、それは修正してますよ。ちゃんと過去現在未来を分けて話していますよ。そうじゃないと、今、通じないからね。

だけど、過去、現在、未来、それをなんで、そんなにごちゃごちゃに話すんだと、思いますよね。・・・でも、日本語でも言うじゃないですか、あの“バナナの叩き売り”。あれ、「このバナナ、1皿、100円で、どうだ？」って言ったら、周りにいたおじさんが言いませんか？「ヨシ、買った！」って。「ヨシ、買った」って、まだ、お金も払っていないのに、「買った！」と言ってるんですよ。(笑)・・・よく似てるよね。だから、日本人は比較的、その古代ヘブライ語の世界に、そうそう違和感がないんですよ。だけどね。インド、ヨーロッパのあっちの世界の人は、「冗談じゃない。そんな言葉・・・」ってと、そういうことになるんです。「何て言う言葉なんだ」と。「考えられない」と言って、ものすごい反感がある。だから、文法書を作る時に、こっちの人は、こう言い、あっちの人は、こう言って、てんやわんやだったんです。で、そんな世界なんです。元々、神様が造って、描かれて、選ばれて、造った社会っていうのは、そんな世界なんです。

なぜかという、今、過去形でも、現在形でも、未来形でも使っちゃべってる人間は、今生きてる人、現在、今、生きて生活している人間が、それを喋っているわけです。だから、あの過去のことも、みんな“今”なんです。そして、未来のこともみんな“今”なんです。これを《永遠の現在》、《永遠の今》というんです。《エターナルナウ》と言って、カッコいい言葉で言うんですけど、・・・私はただ、2025年の7月12日っていうカレンダー上の一点を、「はい、ここを今日生きています」じゃあないんですよ。それは、永遠の過去を背負って、永遠の未来

5C⑦キングダムセミナー20250712

も背負って、《今》というこの時を生きてるわけ。じゃあ、何？過去も未来も、永遠の今という今日、この時点の自分の在り方、自分の決心、自分の見方、今日というのをどう見るか。今日という一日を、自分がどっちを向いて、どのように歩むかということが、【全て】なんです。まあ、言わば、そういうことなんです。そう言っても、昨日と、明日とあるよ。現実にはあるんだけど、・・・あるんだけど、今日という日を、私達はどう見るかによって、永遠が変わってくるという。神様は私たちに今日という日において、私たちにそれをチョイスすることを、任せている。

私たちは何を今日、判断するかということ。だから、ほら、「過去に傷ついたことや、トラウマがあって、苦しみがあって、それで、今の私は、こうなっているんだ」と言うじゃないですか。「昔、あんなことがあったから、あんな育ちだったから、こんな家だったからと。・・・だから、私は今、こんなに苦しんだ」というふうに言うんです。だけど、そうじゃなくて、【永遠の今に生きる】というのは、その過去のトラウマから、今こうなっているのは、・・・過去に起こってから、今に至る一日、一日の【永遠の今】の一日、一日に、過去の【トラウマを選んできた】んですよ。今までずっと。・・・その結果が、【今日】という日になっっているんです。

だから、同じように、今日という【今】に、あなたは、「過去にいつまでも目を留めて、そこで生きていくんですか？ 今日もそうなんですか？」と問われている。「あなたはどっちを向いてるんですか？」って。

過去のトラウマを生み出した、あの人、この人に、いつまでも、向き合っている。だから、神様は、アダムに、「あなたは、どこにいるんだ？」と、問いかけられるんです。アベルを殺したカインに対して、「アベル、あなたの弟は、どこにいるんだ？」と聞かれた。アベルの血が叫んでいるから、・・・誰に？神様に向かって。
だから、誰もが造られて、どこかに向かうように出来ている。あなたは、毎日、毎日、“永遠の今”を使って、“過去に向き合っているのか？”「いや、そうじゃないだろう」「あなたの心は、どこに向いているんだ？」と。神様は、毎日、永遠の今に、私に向いて欲しいんです。神様に。だから、私たちが神様に永遠の今という、今日、ここに、【神との関係性】向き合いの中に立つことなんです。 34 : 28.45

何度も言っていますが、マルチンブーバーの【我と汝】。【わたしとあなた】と言う関係性のこと。【聖書を一言で言う】と、【我と汝】なのだと言っている。まさに、その【関係性】なんだと。「あなたは永遠の今という今日に、誰との関係性を選ぶのか」と言ってるわけです。それを新約聖書では、イエス様が【あなたは、私の中にいる】と。主との一致という関係性の中に置かれていると。これが単なる理論、理屈、頭の中にあった何か思想ではなくて、現実的に身を持って、じっくり、その実感を、私たちは確認していくべきです。キングダムセミナーに耳を傾ける1回、1回、毎日、毎日、そのためにあると思ってください。 35 : 53.71

それで、“私たちが主の中にいて”、“主は、私たちの内にいる”ということを、聖書の文脈を通して、聖句を通して見てきました。それが、30、31ページあたりに書いてあることなんです。“私たちは、主の中にいる”という。そして、今度もう一方、“私たちの中に主がおられる”というこれを、相互に相手の中に内在するという、【相互内在】という関係性ですよと言ってきました。聖書の読み方の中で、ここでしたギリシャ語原文の深い意味を、開いていったんです。

31ページの上から3段目の太字。これエペソベの言葉ですけど、エペソ4章13節「ついに、私たちがみな信仰の一致と、神の御子に関する知識の一致とに達し、完全に大人になって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するためです」というように、ここの箇所を、[神の御子に関する知識の一致]というふうに訳しています。そしてその下

5C⑦キングダムセミナー20250712

に新改訳、口語訳、新共同訳の 3 つの訳をこのように取り上げていますが、神の子を信じる信仰の一致と神を知る知識の一致だけれど、こういう言い方を、原本のギリシャ語はしていません。 これは意識です。

それでも絶対いけないという程のものではないから、このようにしているんですけど、イエスについての信仰とか、イエスを信じる信仰とか、イエスに対する信仰とか、という言い方が、普通に私たちは読んできたし、聞いてきたんですよ。 けどね、絶対それしたら駄目っていうことではないです。私は、それが間違っていますよと言いたいわけではないんですよ。それはそれで、聞いていてよいけれど、よく、そのことを見ると・・・32 ページのところに、ギリシャ語が書いてあります。その下のことばです。そのまま訳すと、【神の子の信仰と知識】という言葉になるんです。 ところが、「神の子の信仰と知識って言ったって、なんのことよ、これって」ということになるから・・・[神の子の、子に対する信仰と、神の子についての知識] ということに意識しているわけです。40：39.16

けれど、今、私たちは聖霊の働きをいっぱい受けていくこの時代の中で、私たちと主との関係性を、じっくり思い巡らすと、【神の子イエスの持っていた信仰】と【神の子イエスが持っていた知識】というふうに読んでも、分かってきます。 そして更に、恵みが深く開かれていくんです。 そのような時代に、私たちは生きています。

それから、もうちょっと先、34 ページから 35 ページのところ。例えば、35 ページの太字がありますよね。

エペソ 3 章 12 節

[私たちは、このキリストにあり、キリストを信じる信仰によって、大胆に確信を持って神に近づくことができるのです] と、読んできましたよね。ところがここは、次のように訳することができます。読みますよ。

[私たちは、キリストの中でキリストの信仰によって、大胆に確信を持って、神に近づくことができるのです] と。

“キリストの中に”私たちは居て、キリストの持っていた信仰によって、——イエス様の持っていた信仰によって、大胆に確信を持って神に近づけるんです。どうですか、このニュアンス。

次に、エペソ 1 章 15 節

[こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰とすべての生徒に対する愛を聞いて、] ここは、

[こういうわけで、私は主イエスの中にあるあなたがたの信仰と全ての生徒に対する愛を聞いて、] と言いたい。さあ、集中して、次も読みましょう。

ガラテヤ 2 章 16 節

[しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただ、キリストイエスを信じる信仰によって、義と認められるということを知ったからこそ、私たちも。キリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためなのです] で、これが、

[しかし、人は、律法の行いによって、義と認められず、ただキリスト・イエスの信仰によって、義と認められるということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストの信仰によって義と認められるためです] 44：28.41

私たちがイエス様を信じた。勿論、最初はそうでしょう。勿論、イエス様を信じた。その時に、イエス様の信仰が、イエス様の霊が、私たちに与えられるんです。 イエス様の信仰が私たちに与えられているがゆえに、私たちは

5C⑦キングダムセミナー20250712

律法を全うしているんです。だから、キリストの信仰が、私たちのところに来たから律法を全うしている。義とされるんです。完全に義とされるんです。 されているんです。 45：37.44

36 ページを開いてください。真ん中辺りの太字のところ。

ローマ 3 章 21 節 22 節

[しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストの信仰による神の義であって、それが、すべて信じる人に与えられ、何の差別もありません。]

私たちは、「神に近づく為に信仰が必要です」とよく言われる。「信仰、信仰」と。「信仰を持ちなさい」と。「信仰を持ちなさいと言うけれど、あなたの信仰は、どんな信仰ですか？」「信仰、信仰」と言われるけど、私たちが神を信じる信仰は、【賜物】です。もう、イエス様の信仰が与えられて、神と信仰をもって、【神と歩むという信仰】も与えられているんです。自分が一生懸命、信仰を作らなくても、頑張って頑張って、信仰を奮い起こさなくても、私たちは、主と共に歩む信仰さえも賜物なんです。もうイエス様によって、すっかりそれも与えられちゃっている。だから、**100 パーセントの福音**なんです。「頑張って信じろよ」「歯を食いしばって信じろよ、そしたら何とかになるから・・・」という、交換条件じゃない。ですから、信仰は賜物です。 47：40.33

36 ページの下から 4 行目、「信仰は賜物です」が、聖書の理解です。で、ここに聖書箇所が他にも書いてあります。この信仰は、イエスが始められ、イエスが完成された信仰です。誰もケチつけることがありません。 私たちが何も手を加える必要がありません。 37 ページの一番上、ローマ 3 章 21.22 節の御言葉によると、『今や律法とは、別の神の義が示された。その神の義とは、イエスキリストが持っていた信仰だった。 イエスの信仰の中に、神は完全なご自身の義を人類に提示された』のです。

その下、ローマ 3 章 25 節 [神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの備え物として公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。]

【キリスト・イエスの血】で、神は人類を買い戻すために、・・・この我々を買い戻すためにということは、支払うものがなければいけないでしょ。・・・私たちを買い戻すために、それを支払って、いわば、サタンに支払って、支払ったのちに、自分のものとされたから、自分のものを蘇らせることだって、神様の自由でしょう。『なだめの』というのは、【賠償金、供え物】として公にイエス・キリストをお示しになったと言っている。それは、【神様自身の義を表すため】であって、我々みんな人類を、義に引き戻すため、買い戻すためだったんです。[また信仰による、]という [信仰] に、定冠詞が付いている写本も多くあって、・・・それは、漠然とした信仰ではなくて「その信仰」、すなわち、ご自身の義を表すために、「キリスト・イエスの血と信仰」を私たちのために、【公にお示しになった】ということになります。

その下、ローマ 3 章 26 節 [それは、今の時にご自身の義を表すためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。] このイエスを信じる者っていう下線の部分、これも、訳が非常に困るところです。“イエスを”って、これ、イエスを信じる者っていうのが対象になっていますでしょ。でも、私が言うように、その下線の部分を変えて読んでいったら、・・・このように別の言い方で言えば、・・・イエスの信仰の者と、いい変えることができる。 ごちない文になるけどね。イエスの信仰の者を、イエスの信仰を持っている者ということも、出来る。イエスの信仰を与えられている者を義と認めるためなんですと言ってもいい。それが書いてあります。(その下の段落の 4 行目の森羅万象って漢字が間違っています。) 52：36.39

私たちは「イエス様のお名前によって、お祈りします」と言って祈りますよね。「イエス様の御名によって」、・・・イエス様の御名を借りているわけじゃないからね。「イエスの名」って書いて、「これが目に入らぬか」と引導を渡す、そういうもんじゃないからね。(笑)そうじゃなくて、イエスの名によって祈るっていうのは、イエス様の中に居て、「祈っています」っていう意味だからね。 どうも日本人が、「イエスの名」って言い始めると、どうも借り物っぽいものになるからね。それで、大切なことは 37 ページの一番下、【イエスの信仰で神を信じる】というところを、見て下さい。ここで私たちは、生まれ変わりの祈りをする時に、始めて信じる祈りをする時に、どういう変化が実態的に起こっているかを知る必要があります。(ここ、注目してください。) 53 : 45.71

ローマ 10 章 9 節 10 節によると、救いに入る条件として、2 つが挙げられています。[あなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われる] ということです。この聖句をよく私たちは、聞きますし言いますよね。で、次、この 2 つのことをすることによって、あなたに何がこったのでしょうか。これをちょっと、分解、分析します。54 : 30.06

「イエスを主と告白する」ことによって、何がこったんですか？

それは、《自分がイエスに属した》という出来事です。《イエスの中に入りました！》《自分が属し、自分を覆い、包み、守っている方を、主と呼ぶのです。あるじと呼ぶのです》たとえそれが誰であっても、その方の中にはいっているなら、あなたはその方を主としています。【その中に入った】ということですよ。

では、後半、あなたがイエスに属した出来事の後で、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じることによって何が起きているのでしょうか。それはあなたのよみがえりです。あなたの勝利が決定されました。なぜなら、神が人の中からイエスをよみがえらせた、そのイエスの中に、あなたはいたからです。このイエスの中にあなたも含まれていました。神が、ほかならぬ神がそのようにされたと、あなたの心で信じる時、その事実にしっかり向き合う時、あなたは救われるのです。

町に教会があります。教会の塔の上に十字架が見えました。高く掲げられたあの十字架に、あなたの子供や孫が、訪ねます。「ねえ、あの十字架って、なあに？」「あの十字架で誰が死んだの？」「イエス・キリストよ」と、あなたが答えるなら、その答えは 50 点です。「誰がしんだの？」と聞かれて、「おばあちゃんよ」「お母さんよ、いやいや、あんたもみんなよ。」と答えたら、これで 100 点です。十字架を見た時、そう思わないといけませんよ。

「イースターの時に、誰がよみがえったの？」と聞かれたら、「イエス様よ」と答えたら、・・・ブーです。「え？イエス様じゃあないの？」「違う。イエス様と一緒に、私たちがよみがえったんだよ」と、マジ、マジでそう言い合える共同体でありたいと思います。次に挙げる 3 つの言葉も、皆さんまた後で、ぜひ読んで黙想してみてください。是非ですよ。58 : 25.44

このようなことで、イエスを対象として、イエスを信じるということは、全部イエスを、イエスの信仰と言っているのかというと、そこはそうではありません。そこは、そんなに単純じゃないです。『イエスを』と、いって『対象として信じる言い方』もあるんです。だから、そこが、ややこしくしているところです。

だけどね。39 ページの下の方を見て下さい。ギリシャ語が書いてあります。「～もまた、私たち、キリスト・イエスを 信じた」——この「私たちは、キリストを信じる」っていう、対象としての言い方の中に、ギリシャ語

5C⑦キングダムセミナー20250712

聖書ってというのは、ぽつんと違うんです。その中に点線の四角で書いてありますよね。『エイズ』っていう言葉が、『～の中へ』っていう言葉が入ってるんです。これは、神様以外の『何かを信じる』っていう場合には入れません。 ということは『エイズ』っていう言葉は、何かというと、キリストを信じるっていう言い方の中に、『キリストの中へ』という、その動的なキリストの中へ、『自分を注ぎ込む』と言うようなニュアンスが込められているんです。

「初めに言葉があった。言葉は、神と共にあった」っていうヨハネ福音書の最初にあるでしょ。[初めに、言葉があった]っていう、その言葉っていうのは、「キリスト」だ、と言われている。その[キリストは、神と共にあった]っていうところにも、このギリシャ語の『エイズ』が、使われているんだよね。キリストは、神と共にあったっていうんだけど、キリストは、『神の中にご自身を注がれるように共にあった』というダイナミックさがそこにあるわけですよ。 1:01:07.11

40 ページの一番下の段落のところ。

このように、「イエスを信じる信仰」が「イエスの信仰」になったからといって、対象として「イエスを信じる」と書かれている多くの聖句が。決して意味を失うわけではありません。むしろ、この両者は『イエスに自分を注ぎ込んで、イエスの中に入ると、イエスの信仰が与えられる』という真理を表しているのです。本質的に2つのことは【瞬時に行われる】。これが【救いの奇跡】です。 1:02:04.68

『私たちの中に、主は、おられる』というのを、私たちはどのようにして分かるのか？というのを前回ちょっと時間を使いました。それば、『聖霊によって分かる』という。じゃあ、聖霊は、私たちの中で、どんなことをして下さっているのかという、そのことも言いました。一つ一つ、クリアに。自分の中に収めていきましょう。 1:03:37

どうですかここまでのところ、もう、何回も何回も、これをお聞きになった方がいると思います。どうぞ、「まあ聞いたことだから、もう分かっている」と思いますけど・・・これをね、頭で分かったっていうのと、自分の生活の中で、『自分の呼吸で分かった』というのとは、ちょっと違う。で、それはどうやって深くなってくるかというと、前回言いましたように、我々に与えられた【聖霊との歩み】なんです。

で、『聖霊との歩み』っていうと、我々が育ってきたそれぞれの集会や教会のその言い方によって、いろいろ捉え方があると思うんです。それは細かな事はどうぞよく考えて、語り合ったり、また質問して下さったらいいと思います。前回、言いました異言という聖霊の働きについて、ちょっと言ったことで、2、3人の方から、質問がありました。当然だと思います。異言ということを、本当に、よく語られる時と語られない時がありますが、私は思います。本当に、ああだ、こうだと、大げさに何か言うよりも、自分の生活と、主との呼吸の中で、地道に、地味でいいから真摯に向き合い、それも聖霊は、主が与えて下さったものだということを、しっかり受け止めて、有益に用いることです。大切にすることですよ。 1:05:52.96

よくユーチューブや、・・・いや、もう昔からそうですけど、その異言はもう必要ないとか、なくなったんだとか、あり得ないとかって、色んな説をいっぱい聞いてきました。でも私は思うに、ちゃんと貰ったものを大切に育ててないんじゃないかなと思います。安易にそれをそのままにしている。安易に、語るままにしている。もったいない。本当に幼い異言から、成長して育ていく異言に、育てていけないといけません。そうしたら、本当に分かる。恵みがわかる。だから、反対したり否定したりされる方がたもいるんですけど、本当に恵みをお知りになってないんじゃないかなと思います。だから、それについては、またその事に対して詳しく、共に分かち合う時を持ちたいと思

5C⑦キングダムセミナー20250712

います。またいつか。異言だけではなくて、他の賜物もそう。いろんな賜物のラリー、そして聖霊の実、愛、喜び、平安、寛容親切、善意、誠実、柔和、自制そういったものを持って、私たちは、何よりも、主の中に居るということを噛みしめて、味わいましょうよ、ね。ゆっくり味わうために、次のキングダムセミナーまで1ヶ月あるのよ。1ヶ月半です。その間、あの人、この人と交わり、確認しながら、自分でも深く掘り下げていくんですよ。じゃあ、前半この辺りで、休憩をはさみます。

後半を始めていきましょう。

41 ページ、【イエスの信仰を使って生きる】と書いてあるところから。00:24:09

私に主の信仰が与えられている。イエス様の信仰、イエス様の持っていた信仰。今どこにあるのか。あなたの中にあると。・・・ちょっと、41 ページの上から、読んでいきます。

「イエスを信じる信仰」という箇所が、本来、「イエスの信仰」だということで、新約聖書のあらゆる聖句から得るところは絶大です。ガラテヤ2章20節の御言葉は、私たちの生活を表す代表的な御言葉です。ちょっと読んでみます。

[私はキリストと共に十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今、私がこの世に生きているのは、私を愛し、私のためにご自身をお捨てになった神の御子、イエスの信仰によっているのです。] この通りです。私たちが相互内在に気がついたとき、このまま告白できる。

神の御子を信じる信仰によって生きるのではなく、《神の御子の信仰で生きる》こと、これが私たち信者の生活です。しかしながら、「私はイエスの信仰で生きる」といっても掛け声だけで、実際の生活は、イエスの信仰に全く及ばないと感じてしまいます。イエスの弟子たちも、当時、そのように感じていたのです。さんざん悩んだ末に、彼らは思い切ってイエスにお願いしたのです。

[私たちの信仰を増してください] ルカ17章5節

ところが、イエスの答えは、弟子たちの信仰にトンチンカンなものでした。「そうだ、君たちの信仰は本当に少ない。もっと増やさなければ・・・」とは言わず、「もし、あなたがたにからし種ほどの信仰があったなら、この桑の木に『根そぎ海の中に植われ。』』と言えば、言いつけどりになるのです」でした。

このイエス様の返事、ショッキングなことだと思いませんか？何を言ってんの？って。でも、この『イエスの信仰によって生きる』という、ガラテヤのこの言葉を真に受け、その通りの自分だと受け入れることができたなら、ここで「なるほど」と思うわけ。つまり、信仰の『量』ではなく、私たちの中に与えられている『からし種ほどのイエスの信仰』を、使うかどうかの問題だということです。

集会へ行く電車賃がない時、将来の進む道が分からないとき、迫害された時、友が病に倒れた時、サタンが誘惑する時、危険な状況に陥った時、神から受けた務めを遂行する時、私たちの中にはイエスの信仰が与えられています。使い始めは、確かにからし種ほどの小さなものかもしれませんが。たぶん、「こんなものが、あのイエスの信仰であるはずがない」と思ってしまうでしょう。でも、自分の内のありったけのイエスの知識と啓示によっ

5C⑦キングダムセミナー20250712

て、信仰を持ち、それを行動に移していくことです。次第にイエスの知識、知恵、啓示、人格能力が、使えば使うほど流れ出てくるでしょう。

今、イエスは、ご自身の信仰をどこで使えるのでしょうか？あなたの中においてです。あなたがイエスの信仰を使わなければ、イエス自身は、手も足も出ません。イエスはあなたに委ねられた存在です。あなた次第のイエスなのです。今、イエスの働きを制限できるのはサタンではありません。あなたと私なのです。これが、《私の中にいるイエス》という【主との関係】のもう一方です。

その下の【もし、主との一致がないなら・・・】さて、主が私たちに求めておられる関係を再び書いてみます。【主との一致】とは、《イエスの中にいる私（イエスに委ねられた私）》と、もう一つ《私の中にいるイエス（私に委ねられたイエス）》このところ、非常に、黙想に値するところです。主との関係性のエッセンスに値します。

07:20.19

はい、その下読んでいきます。ここまでの御言葉によって、さらに深く、この関係を黙想したいものです。主が望んでおられる関係は、相互内在の関係です。互いの命が互いの中にあり、互いにすべてを相手に預け、まかせています。私たちはイエスの中におり、イエスは父なる神の中にいます。そして、父なる神はイエスの中におり、イエスは私たちの中にいるのです。この一致が、ヨハネ 17 章 21 節～26 節でイエスが望んで、父に望んで祈られたものでいた。8:15.90

ちょっと長いけど、その 17 章のイエス様の父への祈りを読んでみます。心を合わせて下さい。
ヨハネ 17 章 21 節 [それは父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、・・・イエス様がどんなに父との相互内在の関係を基盤にしていたかということが、告白されています。・・・次ね、彼らがみな一つとなるためです。彼らが同じようになるためですってということよ。・・・また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです（信じ続けるためなのです）。] 彼らも父とイエスが一緒に一つであるように、彼らもわたしによって一つとなる。その関係性を築くということ、世が信じるため、信じ続けるためと言っているんですよ。私たちが、主とのどんな関係性になって、そして、私たちみんなが、どんな関係性を築けるようになるかによって、『世に証できるか』って言っているんです。

続いて、43 ページのところね。09:50.15

22 節 [またわたしは、あなたがわたしにくださった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。]

23 節 [わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは彼らが全うされて、（一致の中に完成さて）一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わしたことで、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたことを、この世が知るためです。（知り続けるためです。）]

24 節 [父よ、お願いします。あなたがわたしにして下さったものを（人々を）、わたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたが私を世の始まる前から愛しておられたために、わたしにくださった栄光を、彼らが見るようになるためです。]

25 節 [正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、私はあなたを知っています。またこの人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。]

26 節 [そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたが私を愛して下さったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。]

非常に、深く、深く何度も読んで、読む価値のあるイエス様の父への心を吐露した折り、願いです。そして、ここに、重要なことが書いてあります。一番、最後のところです。12：29.10

[そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたが私を愛して下さったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。] ←・・・イエス様が私たちの中にいる、イエス様の信仰で、私たちは生きるって言っているんですよ、これ。ガラテヤのパウロの勧めの告白もね。今、私たちが生きているのは、私たちがではなく、キリストは私たちの中に生きているのだと。(ガラテヤ2：20) その生活の現れなんだって凄いよね。こんなのサンデークリスチャンにとっては、ガーンだよね。集会の中にいることとなんらかかわりなく、私たちは毎日、寝て起きて働いて、家族、親族に接して、みんなを助けていく・・・その中にこそ、キリストの信仰が現れていくんだよと言ってるわけでしょ。14：03.15

それで、キリストの信仰が現れるというのは、なんですか？イエス様みたいに素晴らしい言葉がぱっぱと出たり、預言をしたり、奇跡めいたことが起こったり、癒したり、悪霊を追い出したりっていう、なんか、そんなバンバン大きな現れがあることなのかなって、思うかもしれない。そういう現れもそれはあるでしょうけれど、それらは、一つのキリストの現れ、一つの現れであって、ここで、ポロっと書いてあるけど、【父が私を愛して下さった、その愛】が、彼らの中にあるんだと。私たちの内なるキリストの信仰の現れっていうのは・・・もうすでにあるクリスチャンたちによっては、奇跡だ、なんだかんだとなっちゃう。いやいや、いやいや。それは、当然結果として、実としてあるけれど、私たちの内なるイエスの信仰の現れは【愛】です。15：29.81

どんな愛？ 周りに対して、面と向かっているその相手が、相手をどう愛したらいいのか、父の愛はその人を包んでいるのか。どう父の愛で、どのようにしたら、その人を助けられるのか。どのようにしたら、その人をもっと祝福できるのか。・・・というその愛。そうなんです。周りの人はいろんな人が、勿論、誰にでもいます。愛され、親切にされ、優しくされるにふさわしいと言える人たちがいますけれども、その反対の人達もいるでしょう。もちろんですよ。でも、その人、その人達の中で、どのようにしたら、その人を愛することができるのかっていう、その愛が、神の愛。内なる私たちのキリストに溢れてくる、信仰に溢れてくる、向き合うことに溢れてくる、・・・現れです。17：02.16

あのね、【愛】っていうとね、なんかこう、「あー、イエス様、自分を愛してくれていて嬉しい」っていう、優しいな、という私たちのその感情、情緒、それが愛だと、多くの人は勘違いします。でも、ここでいう【神の愛】は違うんですよ。情緒や感情もあるけれど、何よりも、何よりも、【意志と技術】です。【技術】と言ったら冷たく感じるけど、どのように細かくその人に渡すことができるか。そこには、感情や燃える何かと言うよりも、細かく、その人の、その人の形、場所、その人の現実の姿に沿った工夫が必要なんです。みんなそうです。それぞれの特徴

5C⑦キングダムセミナー20250712

があるわけですから。だから、自分の燃える思いをバンバン言って、吐いてぶつければいいというものではないしよ。18:29.77

私が、度々言いますが、私たちは、だいたい20世紀に生まれて、21世紀に生きています。21世紀に、本当に神と共に歩もうと思う人は、絶対読むべき本があるよ。エーリッヒ・フロムっていう人が書いた、『愛すること』という本があるんです。その本は、「21世紀に生きようと思うんなら、あんたたちが絶対に読むべきだ」って、私が若い頃、尊敬する人が教えてくれました。

“愛する”ということについて、多くの人は、“愛される”ことを気にしている。自分が、みんなに認められること、歓迎されることを。相手に気に入ってもらえる自分になりたいと。“愛される”ということが頭にあると、何よりも“愛”というのは、そう考える。でも、エーリッヒ・フロムは、「NO、NO、NO！ 愛は、“愛される”ことであったり、また、“この人可愛い”っていう情緒でもなく、愛されることよりも、・・・愛することなんだ。自分が、相手がどうであろうと、その人を愛すというのは、その人に合った、その人が本当に神に生きるために、どういふようにサポートしたらいいか、どこを祝福したらいいか、それを細かく見極めていく、自分の中の、その点で厳しいチェックなんだ」と。自分が愛されているか、みんなから愛されていないか。・・・そんなことを思っていると、とてもこのレベルにいきません。

「愛するというのは、愛されることは関係がない。自分には、すでに神の愛が注がれているんだ。キリストの信仰があるんだと言うことは、もう愛されるということは、関係がない。愛されたいと思うな。周りをひたすらに愛せよ」と。その愛は、あなたの情緒ではないという、それは、この聖書の言っている、福音が言っている至極真つ当な、“愛”です。そして、さっき言った“永遠の今日”というこの日に、自分がどう生きるかという事に繋がる。

自分の過去が、家族から、あの人から、この人から、どうされてきた。それは勿論ありますよ。けど、永遠の今というこの時に、あなたが愛されることだけに目を止めるのか？ いやいや、愛することに目を止めるのか？これによって、今日から、未来は、貴方の未来は、カラッと変わりますよ。「もう過去を絶対引きずらない！新しくなった！全てが新しくなった！古いものは過ぎ去った！」と完全に言えるのは、そこなんです。こういう“永遠の今”という今日を皆さん、毎日、踏み行っていきたいと思いませんか？

主は『あなたは、どこにいるのか、今日という日に、あなたはどこに向かっているのか、誰に向かっているのか』っていうことが、問われているんです。究極的に。23:36.86

ところで今回は、【主との一致】というパート1を途中から始めました。第4クール目までは、順番にチリチリやってきたんです。ですが、この第5クール目は、・・・初めから読んでいた方は、「始め、飛ばされちゃったよね。初めから読んでいたのに・・・」という方もおられるかもしれません。ごめんね。・・・だけど、意味があるんです。この【主との一致】のエッセンスを、まず先に話したかったんですよ。そういうわけで、なんです。

それで、ここで私たちが「自分の内にあるキリストの信仰を解き放っていく」と言った時に、・・・ここで、言った時にですよ、イエス様が言われた『彼ら、彼ら、彼ら』、3つも書いてあるそれが、一つという複数形なんです。つまり、あなたっていう個人をあてにしていないわけよ。いつも複数形なんです。ということは、私たち

5C⑦キングダムセミナー20250712

は、一人ひとり、主との相互内在というのを確認するんですけど、「初めに周りの人や横との共同体よ」というと、自分が消えちゃうでしょ。これ、日本人の我々の、本当に、良いとこであり、癖ですよ。いつも周りをキョロキョロしてしまうでしょ。「周りキョロキョロしないでいいから、まず、自分の主との相互内在を、見極めましょうよ」と言うことを話したかったわけです。25：26.44

そして、「今、自分の中にあるキリストの愛を解き放しましょう。」「愛しましょう。」自分の周りの中で、愛されるのではなくて、私はどうしたら、『愛せるか』ということ。安心してください。聖書には、ちゃんと共同体の完成のレベルが、そこに描かれてるんです。

私はどうしたら『愛せるか』ということを考え始めた時に、個人のレベルから、複数の共同体のレベルを、そして、共同体のレベルから、今度は本当に父なる神が乗り出してこられる共同体の完成のレベルが、聖書には、描かれている。備えているんです。26：16.94

だから、まず『個人で、御霊と共に歩む』というレベルを、押さえました。そう言うことが、44 ページに。開いて見て下さい。これはもう、パート1の最後になるんですけど、・・・26：36.42

【これらは「神の国」を歩み始めるための本の前置きです】というところ。

『主との相互内在の奥義』が開かれてくると主の平安と主の能力が霊のうちに確立してきます。

しかし、これらは、神の国を歩み始めるためのほんの前置きです。主との相互内在の啓示から、『イエスの信仰を使い』始めることが大切であることはわかりました。けれども、相変わらず、イエスを礼拝の対象のみにしておきたい衝動にかられる程の、この「イエスの使う信仰」と、「私たちの使う信仰」のギャップは何なのか。イエスの信仰の根底にあるものは何か。イエスは心の奥底で何を知っていたのでしょうか。27：47.45

『信仰を使う』ということは、いかなる場合でも、目に見えていないものを、霊の次元で見るということです。霊の次元で、当たり前のことと分かれば、わかるほど、霊の目で見て、現実にすることは容易になります。イエスにとって、霊の次元で、何が当たり前のことだったのでしょ。あまりにも当然だったから、あんなに平気で、色々な働きをされました。イエスがどぎまぎしながら説教をしたり、おどおどしながら、人々を愛されたことはありません。肉体の目で見ていたかのように、霊の世界の真理が明確に、霊の目で見え、霊の心で理解されることを【啓示】と言います。この啓示が、その人の知識となり、人格となり、能力となって根底を形成します。それらがその人を使う【信仰の土台】です。これは、みんなそれぞれ違うよね。はい、次、読みます。29：02.65

イエスは、天の父との関係、人々への愛、自然界に対する力、暗闇の世界に対する権威などに信仰を使われました。どの力の現れにも、言葉にも、肉の働きの微塵もありませんでした。すべてのわざと言葉が、父なる神の心と働きに向けて集約され、ぶれも狂いもなかったのです。まるで、父の心のキャンバスに描かれている絵を知り抜いているかのように。イエスの技と言葉のパズルは正確でした。その通り、イエスは、父なる神の心の絵をよく知っていました。ですからパズルは簡単でした。イエス様にとってはね。

さて、私たちとイエスとの間にギャップがあるとすれば、私たちの父の心に描かれた壮大な絵を知らないということなんです。部分的には見ているでしょうか、もし、自分たちが見えているところによってのみ『イエスの信仰』を使おうとするなら、パズルは狂い、隣の人のパズルと合わせられなくなってしまうでしょう。

5C⑦キングダムセミナー20250712

なぜ私たちは 一部分を見て、すぐに『イエスの信仰』として使おうとするのでしょうか。なぜカンパス全体がせめてぼんやりと見えるまで待てないのでしょうか。『主との一致が啓示となり始めた』の今の私たちの急務は、イエスが見ていた父の心のカンパスを、私たちも霊によって見ることです。イエスが見ていた父の心のカンパスの絵とは何でしょう。それが、【神の国】なのです。31：22.57

【神の国】ってなんですか？『神の国は、近づいた。だから悔改めなさい。』と言われた、あれは、神の国は近づいたから悔い改めることができる。あなた方は方向転換できるという意味ですよ。「悔改めろ。そうでなかったら、神の国は来ないからな」と、そういうふうに脅迫しているんじゃないからね。神の国は、来たから、『来たから』、あなたがたは、悔い改めて、向きを変えることができるんだと。福音は、脅迫でも、裁きでもない。福音は、神の国の到来の告げ知らせでしょ。【相互内在を知る】というのは、私たちの内に神の国が来たんだ。神の国は、神と人と、【関係性の国】なんです。だから、神の国、神の国、って、私たちは分かっているけど、共同体、グループの中で、本当に【イエスの信仰で相手を解き放つ】というところに、なかなかいかない。それは、愛されることばかりを求めてしまうから。

だから、《一人ひとりが、聖霊を受けて、満たされて、生きる》というそのレベルから、《キリスト頭とするキリストの共同体、「キリストの体」という複数の人々の中で、結び合わされた神の国の共同体を、いかに築き上げていくかということが、実際、今求められているところです。

それは【相互内在の関係性】をあらわに表現した『神の国の共同体』です。 人が沢山集会に集まってくるのは、いいことだと、嬉しい、教会に人が増えることは大歓迎だと。勿論、そうなんですけれど、今、密かにというか、深く問われているのは、頭の数じゃなくて、私たちがどんな共同体になっていくか、そこが、問われています。 35：17.28

はい、それで、今回は、パート1の【主との一致】の初めに戻って、その3段階を、深くやりたいなと思います。はい、今日パート1の主の後半の大事なところを、みんなで学んできたんですけど、何かコメントがありますか？

私たちの今日というこの日は、多くのクリスチャン聖徒たちが築いてきた歴史の果てにあります。で、また今日から明日にかけて、またその続きが展開されていくんです。私たちの今日というこの日は、あの初めのアダムが、今日というこの『永遠の今』を歩いて、現実を引っ張っていたように、同じなんですよ。エデンの園の今日は、今日である。イエス様の来られるまであの長いイスラエルの歴史、それも、1つ、1つが今日という日の連続でした。37：27.30

今日という日に、私達は、じゃあ何を見定めて、何を聖霊と決心するか。

そうですか、相互内在ですか。じゃあ、「永遠の今」という、今日という日、それを自分のものとしましょう。私、昔、よく一人で、「ヨシ、貰いました！」って。・・・こんな祈りあんまりないでしょ。 みなさんします？段々心に満ちて、「ヨシ、貰いました！」って、・・・「買った！」って言うのと、一緒よ。その支払い「買った！」「もう、支払い済んだ！」って。

5C⑦キングダムセミナー20250712

新しい時代が始まっています。今、ほら。あんまりいろんなことを言いだすと、「それも聞きたい。あれも聞きたい」ってなるし、私も喋りたくなるけどね、そう思ってもいいよ。けどね、今、21世紀になって、20世紀の終わり頃から、本当に盛んになって、よく聞くのが終末論じゃないですか。『終末の論』、どうなる、ああなると。世界がどうなるか、もう、わちゃ、わちゃ・・・と。

でも、私、それに文句を言うわけじゃないよ。ね。そりゃ、そのように専門的に見ている人の意見や考えは、大切なかもしれない。でも、今、本当に大きな時代の、神が築き上げていくことの分かれ目に、継ぎ目に来ていると。そう、つくづく思います。歴史を見てもね。この本の4ページに、「初めに」という序文があるんですけど、さっと書いてあるここを読んで、どうおもわれましたか？

今、歩んでいるこの日々は、教会時代から次の時代に移る過渡の時代です。これまでの時代には、失われたり、隠されていた多くの真理が、回復され、伝播されていく時代に、私たちは入っているのです。過渡期というのは、到来するものを迎える喜びとともに、少なからず、混乱と戸惑いがつきものです。

この回復の真が最中にあっても、ある人々は、これまでと同じように励んでいるのに、なぜか、以前と同じ手ごたえを感じることができなくなっていることに気がつき始めます。なぜなのか、それはその時期における回復の油注ぎが変化してきているからです。かつての旧訳の時代から、新訳の時代へと移り変わる大きな過渡の時代がありました。当時の人々も、二つの時代の大きな違いにとど戸惑っていたのです。

私たちのこの日々にも、まさにそれと同じ程の変化の時代であると言ってもいいでしょう。この変化を神ご自身がもたしているのです。しかし、『神のわざ』が人間の視点で受け取られる時、戸惑いと不必要な混乱が生じてしまいます。その結果、回復の果てにある目的地につけないとすれば悲劇です。新しい酒は『新しい皮袋』が必要です。

今日から始めるこの集会において、私たちはこの時代に起こっていることの本質と目的を、神の言葉の啓示に基づいて、学んでいこうとしています。それによって、私たちは新しい時代を受け取るための『新しい皮袋』を用意することができるでしょう。41：49.89

その新しい時代が、今盛んに言われている終末論のその通りなのかどうかはさておいて、『大きな変化の時代』というのは確かです。物理的に、国際的に、軍事的にどうのこうのということは、誰も言い得るでしょう。はい。歴史上どの時代もそう騒がれてきたんです。けど、・・・けどですよ。ここ大切なところ。【神様が、物理的に目に見える領域で変化をもたしている、その根底には、・・・神の民の霊的な『根底』、『生き様』が、揺り動かされ、何よりも『変えられている』】ということなんです。そこに目を止めないで、物理的な、あそこがどうなった、こうなったということに、目を止めるなど。あるのは、あるんです。確かにある。【でも、それに心を奪われ、私たちが『永遠の今』を見つめる場所を、見損なっては、いけません。】と。はい。43：36.86

何か言いたいことありますか？ LINEの皆さん。今日の前半後半で。・・・どうぞ皆さん、1回聞いてもね、その日、その時が、『永遠の今』です。「あ、私、この部分、買った！」って言う。それはもう、それで素晴らしいんですよ。ところがね、明日、明後日、1週間後、2週間後にもう一度聞いたら、「あ、ここ買い忘れた」っていうところがあるから。ね、だから、何度も聞いてください。そのために1ヶ月間の間がありますからね。毎週、毎週、新しいことを聞きたくないでしょ。この調子で。じっくり、消化していきましょう。どうしても固くて、「これ、噛め

5C⑦キングダムセミナー20250712

ない」という時は、直接私に、どうぞ遠慮なく、電話してください。はい、そういう方、何人もいらっしゃいますからね。どうぞ、遠慮なく。この点では、遠慮なく、がめつく、はい、そういう方が、得ですよ。46:41.23。

みなさん、我々のクリスチャン生活ね、色々してきておられると思いますが、・・・“ささやかなもやもや”っていうのが、あると思うんですね。これまで持っていたその“ささやかなもやもや”を、本当に、紐といて、はっきり明確にして、今日という今に、集中力のある生き方しましょうよ。ピントをぼかささないで。それは勿論、人さまざまですけど、みんなあると思いますよ。生活のあれこれ。・・・でも、今日言いました『永遠の今』というこの時、『気に入られよう』とか、『愛されよう』とかっていうことは捨てて、いかに、神の、『イエスの信仰』で、その人に、愛をあげられるか、それが私たちの務めです。

それから、今日のメッセージの中で紹介した本ですが、それは、エーリッヒ・フロムという著者の『愛すること』です。その前編というのがあるんですけど、それは、『自由からの逃走』っていうんですけど、その『自由からの逃走』から結論を得て、・・・「自由からの逃走をしないために、真の自由に留まるために、いったい何が必要なのか」という問いの答えが、「愛することだ」と、ということなんです。だから、彼が言いたい後半の部分だけなんですけどね。うん。まあ、ゆっくり読んでみて下さい。そんなにね、信仰、信仰っていう本ではありません。本当に社会学者がじっくり考えた『答え』というものです。でも、その中で言っていることの内容は、もうそっくり、聖書が語っていることに通じるということです。

(ラインで参加されている方の質問に答えられて)

生活の中で、色々みんなあると思います。だけど、それを、その人を、私たちがどのように知るかということ。神に作られているその人の特徴、その人という“人となり”、それを私たちがどう知るか、その人というお方を、『我と汝』の向き合いの中で、既に私たちが『我と汝』で向き合っている主、その主の霊によって、その人を分かせてもらう。自分が、その人についての啓示を得るようになること。

だから、エーリッヒ・フロムは、その点も言っているんです。愛することの大切な技術のポイントは、「知る」ということです。その人を知ること。そうでなかったら、愛せません。そうでなかったら、自分の情緒の押し付けになりますよ。だから、私たちの内にあるイエスの、主の信仰によって、『その人を愛する』んです。その信仰というのは、初めに言いましたように、『我と汝』の向き合い。ほんとに向き合っているか、斜(はす)に構えて、私たちはちょっと斜め顔をその人に向けて、「ふーン」って分かったような気になりますが、そんなのではないんです。私たちと、主との関係は、そんな「はすの関係」じゃないでしょ。それは一人一人、もう、ガッツリ向き合っていく。その時を大切に。問われたら、問いかけられたら、私たちは正面切ってその人に答える。心からそうでしょ。

だけど、創世記の3章4章のあたり読んでみたら、そうじゃないんです。神に、いい気持ちで捧げたアベルには注目したけど、そうでなかったカインは、すねて顔を伏せたんです。でも、神様は、目を留めたアベルよりも、誰に沢山話しかけたんですか？ カインに話しかけたんです。『どうして顔を伏せているのか。正しいことをしているんだったら、顔をあげたらどうだ』と。もし、そうでないなら、『罪が戸口で待ちぶせしてるよ。あなたはそれを治め

5C⑦キングダムセミナー20250712

ることがきるんだ』と。アベルには、そこまで一言も言っていないのに、カインには、それだけ、神様は言葉を尽くされたんです。それだけ言った、言われたカインは、神様の語りかけに、神様のその言い方に、なんか応答すべきでしょう。「はい分かりました。治めます」とか、「気を付けます」って。言えればいいでしょ。ね、ところがカインは、そうじゃなかった。神様に何も答えないで、何言ったの？聖書に書いてあるのは、その神様が言った直後に、カインが言ったのは、・・・[カインはアベルに語りかけた。]「野に行こうではないか」って書いてある。何？これって。神様に語りかけられていながら、はすに聞いているわけよ。

神様に言われたことに、ガッツリ向き合って、神様の言われたことに対して、「自分はどうか」っていうのを、真剣にガッツリ答えるのが、『我と汝』なんです。ところが、カインは。その神様が言った言葉のすぐ後で、弟アベルに言った。神様に言ったんじゃないんですよ。この聖書の、神様の語り方に、みなさん、本当に深い教えがあります。アベルは、殺されて血が土の中に流れたけど、神様は、アベルにも、『その土が私を叫んでいる。』その向き合いを神様は大切にされた。でも、カインにも大切に語りかけたんです。なのに、人はいつも、どっか、はすに構えて聞いている。 59：21.71

「永遠の今日」という今に、あなたはとうですか。私たちはとうであろうか。神様の語りかけから、聖書からもらった・・・、でも、それを、真摯に答えるよりも、我々の内から、神様に話したいことが山ほどあるわけよ。神様に語りたいた愚痴や悩みや、そんなものが、我々の内には山ほどある。「こうしてよ。ああしてよ。こうしてくださいよ。」って、言いたい。だけど、私たちは本当に、神の語りかけに真正面から導き出して、いるか。飢え乾いて、それに応答するという・・・これが、今という時に、神様が、「あなたは、どこを向いているのか」と、問いかけているんです。エデンの園は、まさに、今の私たちの現実でもあります。 1：01：01.11

では、時間になりました。1つ 2つ、賛美して終わりましょう。歌う言葉の中に、私たちの決心を込めていきましょう。 1：06：59.17

賛美